

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

別添資料5

公表:平成 31年 3月 8日

事業所名 ちゃいるどPOP

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	5		日により偏りがあるので、少ない曜日の支援の見直し。
	2 職員の配置数は適切である	3	6	利用者の人数に合わせて変化はある。	日により重・軽度の障がいの子がいる中でもう少し余裕のある人員確保を目指している。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6	3	昼食の場所・宿題をする場所などは決めている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6	3	・換気扇・エアコン・加湿器等定期的に掃除している。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	2	支援計画書を見直す時期にはケース会議(少なくとも1人につき年2回以上)を行い、非常勤職員を含め参加してもらっている。	ケース会議に参加できない職員との連携の取り方の見直し
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	1		年1回行っている。大きな行事を行った際も保護者向けのアンケートを行い次年度への課題整理を行っている。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	4		ホームページで公開している。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	5		外部研修を取り入れていっている。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	1	障がい特性の理解の為、研修会の他に勉強会を行っている	年2回職員研修会の内容をその都度の職員のニーズに合ったものにしていく。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	2	新規利用の方は特に、他の通所事業所などとも連携をとるようにしている。	
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	5	子どもの障がいによって変えている。	誰が見ても分かりやすいものへ。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7	2	支援の統一を図る為、支援内容は出来るだけわかりやすく表記している。	分かりやすい内容にする。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	2	ケース会議での支援内容の周知。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	6	3	職員会議(常勤会議)で、大きな行事は決めている。	非常勤が会議に参加できていないので、事前に聞き取る等の課題はある。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	3	出来る範囲でみんなの意見を取り入れるようにしてる。	非常勤が会議に参加できていないので、事前に聞き取る等の課題はある。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7	2	保護者・本人の意見を聞くようにはしている。	
17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	3		・新規利用者はその都度確認している ・朝礼を行っているがシフト制の為全員参加ではないので、ホワイトボードでの周知も取り入れていっている。 ・ケース会議を1人の利用者につき年1回以上行っている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	6		・最近少なくなったような気がする。 ・外出・行事の時には行うようになっている。日々の振り返りは、翌日の朝礼で行うようになっている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	3	日々のケース記録を残し、ヒヤリハットも含め、特記事項も残している。	ゆっくり記入する時間の見直し。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	9		6ヶ月に1回計画書の見直し時期に、ケース会議での課題報告を含め、担当者が保護者と話をする機会を設けている。	今後も担当者(作成者)の主観だけでなく、ケース会議を行って課題・支援の周知。
関係機関や保護者との連携	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	3	担当者を決め、支援計画書や保護者とのモニタリングを行い、ケース会議にも参加している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	5	相談支援・リハビリ施設・療育園などを利用している児童に対して連携は心掛けている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	5	4	医療的ケアが必要な児童の利用前には、看護師もしくは管理者が通院同行を行い、医師との連携を図っている。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	7	2	通院同行時に緊急時の連絡方法を聞くようになっている。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	4	ケース会議や、見学が可能な施設へは見学を申し出て他での支援を見に行くことも行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	3	お迎え時に先生からの情報収集を行っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	5	職員個人で研修への参加をしている。	学んだことをもっと周知・実行できるように。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	7	以前、地域の小学校での紙飛行機大会へ参加したことはある。	今後も参加を試みたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5	4	児童デイ・相談支援の集まりには参加している。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	1	連絡帳や送迎時にその日の出来事や変化を伝えるようになっている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5	4		特に今までは行っていないので、保護者に対して情報を知らせていく。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9		契約時に書面もしくは口頭で伝えている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6	3	面と向かって説明が難しい場合は、一文を添え、説明するようになっている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	2	7		こちらからの投げかけをもう少し行っていく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7	2	年1回保護者にも声をかけ、ダンスの発表会を行い保護者同士の交流も図っている。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8	1	苦情・相談窓口を設けている。すぐにかんりしや・リーダー・担当者への報告を行い、対応を心がけている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	1	2か月に1回新聞を発行している。Facebookを使い、日常の様子を伝えている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	8	1	職員の契約時に、取り扱いについての説明を行っている。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	2	いつもと変わったことがあった場合は、送迎時などに連絡・報告を行うように心がけている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	7		・事業所単独ではないが、地域の地域と福祉の繋がりがイベントに年1回3年前から参加している。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8	1		・避難訓練やマニュアル等はあるが周知徹底はされていないように思う。 ・文書での通知、保護者向けの新聞、Facebook等での訓練の様子を知らせている。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	1	年2回以上避難訓練を利用日に児童を交えて行っている。	訓練時に居なかった職員・利用者への避難時の約束の周知。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	9		アセスメント・お薬手帳での確認を行っている。薬に変更があれば、知らせてもらっている	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	4	アレルギー聞き取り用紙にて、保護者記入で聞き取りを行っている。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	1	直ぐに記入できるように用紙を身近な場所に挟んでいる。	・事例集はないが、会議議事録に記載している。 ・ヒヤリハットは文書にて報告、事故に関しては自己分析して報告書を作成し、再発を防いでいる。会議で周知している。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9		年1回以上職員研修を行っている。虐待防止委員会を設置し、日々の支援で気になる事の振り返りを行っている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	9		虐待防止委員会で話し合い、職員に周知し、計画書に記載・保護者に説明し記名押印してもらっている。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。